

1. 農地・施設の復旧・整備技術情報

被災農地の塩分管理のためのモニタリング技術

1. 令和6年能登半島地震により、津波被災農地が発生しています。本資料では土壌水分・ECセンサを用いて、簡便に被災農地の塩分測定を行う手法を紹介しします。

2. 現場で実施できるセンサーによる簡易な土壌塩分（EC）測定

ペースト状もしくは湿潤状態の土壌をビニル袋内で圧縮し、安価なECセンサー（HANNA社、HI98331）を用いて、現場で従来法に近い精度での測定ができます。

3. センサーによる土壌塩分（EC）を経時的にモニタリングする技術

土壌水分量と電気伝導度、地温を同時に計測できるセンサーを活用すると非破壊で経時的な土壌塩分（EC）の推定が行えます。

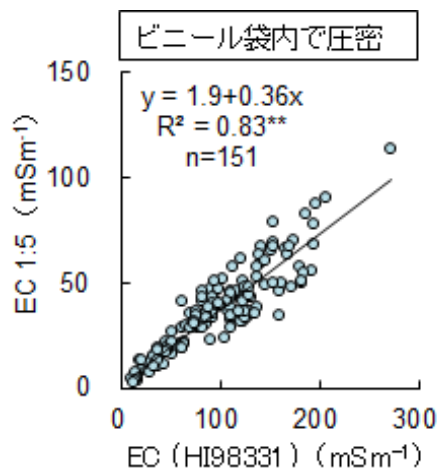


図1 従来法との測定値の近似性
(縦軸：従来法 横軸：ECセンサーの利用)

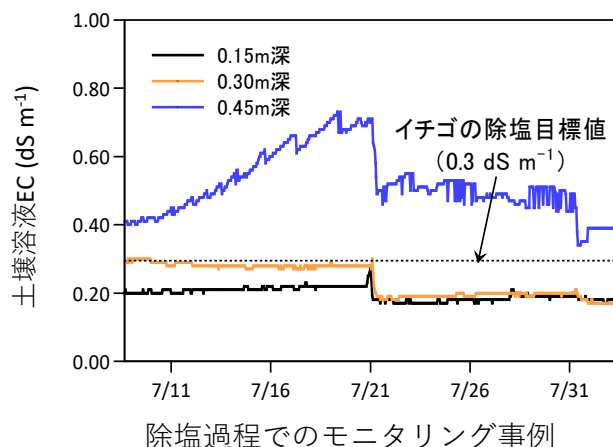


図2 土壌塩分モニタリング技術

(参考URL) 東日本大震災への対応

https://www.naro.go.jp/disaster/higashinihon201103/files/dt2016_02_01.pdf

問い合わせ先：農研機構 農村工学研究部門広報担当 029-838-7677